



吉野川 ラムネット通信

第2号 2011年5月20日発行

ラムサール登録に向けて一歩前へ

今年の初め、まだ正月気分も抜け切らない1月8日に「ラムサールネットワーク日本」の事務局長浅野正富氏に遠く栃木県からお越しいただき、「吉野川のラムサール条約湿地登録を目指して」と題して講演いただきました。

浅野氏は、弁護士として環境、野生生物、森林、湿地、公共事業などの問題に取り組んでおられます。講演では、穏やかな語り口ながら理路整然とお話しされ、全体として、ラムサール条約についての理解が深まったと思います。今後吉野川が目指すべき方向が多少なりとも見えてきた感じがしました。ラムサール条約登録されるためには国際条件と国内条件があります。吉野川は国際条件についてはクリアしていますが、国内登録条件としての「保全の法的担保」と「地元の賛意」が課題となっています。

浅野氏は、渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会の事務局長もされています。この渡良瀬遊水池と吉野川そして「こうのとり湿地ネット（円山川下流域）」は同じ国交省の管理であることから、この3団体が一緒に河川法を保全の法的担保としてラムサール条約湿地の登録をできるように要望書を国交省と環境省に1月に提出してきました。

今後、地元の賛意をいただくように署名活動を継続して進めていき、この法的担保についても情報を収集しながら、実現していきたいと思います。

以前、講演していただきました呉地正行さんが活動されているラムサール条約湿地の蕪栗沼も今回の東北大地震で被災、また呉地さんのご自宅も被害にあわれました。幸いにもご自身は他所に出かけていたそうでご無事でした。

今回の地震では伊豆沼・内沼、蕪栗沼・周辺水田、化女沼、松川浦、蒲生干潟など、ラムサール条約の重要な湿地が、被害を受けています。

吉野川ラムネットとしても微力ながらカンパを呼びかけて少しでもNGOの活動を支援していきたいと思いますので、ご支援くださいますようお願いいたします。

事務局長 藤永知子

吉野川の思い出

住吉・城東公民館長 中島 和夫

吉野川河口の堤防脇に住んで70年、吉野川が子ども時代の遊び場であった。冬は、堤防のうえで「奴だこ」を揚げたり、ダンボールを尻にあて、堤防を滑り降りしたものだ。親が、青海苔や岩牡蠣を採ってきて食卓を賑わしてくれた。近所の半農半漁の家では、吉野川へ小舟を出して、網を広げたり、競走馬や役牛を飼育している家の子は堤防の草を刈り集める仕事場であった。

夏の吉野川は、子どもの世界であった。春先には、沖洲樋門(紙屋の水門)から新町川に少し入った所が、「シオフキ貝」の住処であった。子どもたちが干潮時の浅瀬まで膝までつかり、「シオフキ貝」をどっさり採った。割合大きな貝で美味しかった。

夏休みになると、毎日のように吉野川で遊んだ。「西の浜」はヨシが多く、急深のところがあり、それがまた、冒険心を煽り、楽しみでもあった。「東の浜」は、砂丘が広がり、干潮時には中洲もでき砂遊びや寝そべるのに絶好の所であった。「ハマグリ」を採ったり「ウスガイ」を川水で洗って食べたり、持参した空豆を食べたりしながら、時間を忘れて過ごした。ホテイアオイを集めて川で浮かんでいたこと、近所の兄さんが大きな筏(いかだ)を造ってくれて遊んだこと、干潟のヨシ原に分け入り、迷路をつくり「探検ごっこ」をしたこと(パンやカケスの巣は壊さないルール)、「沖洲樋門」で堤防上から、川に飛び込みをしたことなど懐かしい。

吉野川の東端の「オニガス」へ「バカガイ」を採りに行ったこともあった。足で貝を確認し潜って採り、浮かべた桶に入れていった。持ちきれないほどの貝が採れた。

吉野川もあの頃とずいぶん変わっている。貝を採る人もなく、泳ぐ人も見ない。アシも元気がなく空き地ができ始めている。あの頃、干潮時には砂浜を見せた沖洲側の中洲も、潮が満ちてくると全て水面下に沈んでいたが、

現在は、常時陸地になってヨシ原が拡がり樹木さえ繁茂している。堤防下を自動車が行き交い、吉野川に新しく橋さえ建設されている。新しい時代の吉野川に様変わりしている。



『吉野川への想い』

徳島の東西をつなぐ、雄大な吉野川。
飲み水、しじみ、青のり、鮎・・・豊かな恵みが溢れる。私たちの命の源である吉野川。
そんな吉野川が大好きだ。
私が思う、吉野川の3つの魅力を紹介したい。



1. 遊べる人・遊べる場所があること

2004年に、私は「川の学校」のスタッフをさせてもらった。心も身体もフル回転させ、思いっきり遊び、川をまるごと楽しんだ。水中メガネをつけ、川底に潜ると、そこには、青々と澄んだ水、どんと押し寄せてくる大量の魚たちがいる。その美しさに感動し、わくわくした。「川の学校」では、存分に遊ばせてもらった。

2. 市民発信のユニークな運動があったこと

「NPO 法人自然スクールトエック」を通して、徳島スタイルの住民運動のこと、私の心の中で永遠に生き続ける姫野雅義さんから川と人の関係、市民の在り方、生き方など色々なことを学ばせてもらった。少し余談になりますが、今年10月、念願だった、長良川河口堰を訪れた。利水のために作られた河口堰だが、ほとんど使われていない上に、近くの自然環境は壊れていくばかり・・・何のために作られたのか。それと同じようなモノが、吉野川にも作られていたかもしれないと思うとゾッとする。地元の方が、「できる前に声をあげることだよ、出来てしまったら、後のまつりだ」と長良川河口堰を見ながら、語っている姿が、なんとも切なく感じた。しかし、そこで諦めることなく、今も、よりよいカタチで次世代に受け渡したいという思いで、多くの方々が、長良川で活動している。その熱い思いが、ひしひしと伝わってきて、励まされた。

3. 多様な人と出逢えること

吉野川で出逢った人たちが、私は大好きだ。だからこそ、川の活動を、続けていられると確信している。吉野川を通じて、出逢えたことに感謝。



塩崎聡子（川塾）撮影

20年後、「あのころは、魚がいっぱいで良かった」ということは、言いたくない。未来を担う子どもたちと「きれいだね」と一緒に眺めて、遊びたい。そう、強く思う。

森 巳歩

※川の学校とは、2000年からスタートし、野田知佑さんが校長を務める。絶滅危惧種である川遊びをする子ども達（川ガキ）を養成する学校。

※NPO 法人自然スクールトエックとは、環境教育セミナー、野外活動プログラム、カウンセリングワークショップなど、大人から子供までが遊びながら学べる場を展開している。

吉野川でのイベント情報

- 5月29日(日) 10時～12時 (小雨決行) しおまねきラリー2011
観察場所：吉野川河口干潟
集合場所：吉野川河口南堤グランド東詰 (小学生は保護者同伴)
参加費：大人300円・高校生以下100円
主催 とくしま自然観察の会&徳島子ども劇場 (☎088-626-2257)
- 6月19日(日) 9時～11時 探鳥会 当日参加のみ
集合場所：吉野川河口南堤 (東環状大橋付近河口寄り) 参加費無料
主催 日本野鳥の会徳島 (事務所☎088-633-0180)
- 7月30日(土) 7時～9時 吉野川ひがたクリーンアップ大作戦
集合場所：吉野川フェスティバル特設会場
※軍手とゴミ袋は用意しています。
問い合わせ：吉野川フェスティバル実行委員会事務局 (☎090-3783-2084)
- 7月31日(日) 9時半～12時 親子でラムサール探検隊 (中洲干潟の観察会)
舟で、中洲干潟に渡りひがたの生きものを観察します。
参加費無料 (但し保険代100円)

※ 問い合わせ:090-7268-9448 (藤永)

【編集後記】

目に青葉 山ほととぎす 初鯉
何の愁いもなく季節の遷りを愛でたいものだ、初夏の輝く陽を浴びて浜辺にぴちぴち跳ねる魚を食べたいものだ、もろ手をあげて生産の大地に感謝したいものだ・・・忘れもしない3月11日の大震災は、取り分け追い討ちをかけた原発の大事故は、ふつうの人のふつうの夢を根こそぎ奪ってしまいました。あたり前のふつうの夢はかけがえのないものだったのに。

でも、私たちは信じています。原発なんかに頼らない暮らしのために人知を集めれば、失ったものにも負けない暮らしを蘇らせることができる。

そして思います。川も海も山も、今日ここにある自然は長い長い悠久の時間が育てた賜物だと。「吉野川河口干潟をラムサール条約登録湿地に!」この呼びかけを実現させたい、悠久の時間が育てた賜物に、ほんのちょっとだけれど嬉しい足し算になるからです。各地でNGOやNPOの人たちが湿地登録を目指してがんばっています。震災からの復興再生のためにも条約湿地が何ヶ所も増えますように。吉野川河口が一番で、二番三番と増えますように。

(Y)

吉野川ラムサールネットワーク事務局 HP:<http://www.yrn.jp>
〒770-0874 徳島市南沖洲4-1-14 藤永方 事務局長 藤永知子
☎090-7268-99448 Email:taikazann@hotmail.com

